

郡上長良川ロータリークラブ

クラブテーマ **楽**

会長：小島正則 副会長：山下 誠 幹事：松森正和

例会日：毎週水曜日 18：30～

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191E-mail：gsrc@abelia.ocn.ne.jp 発行 クラブ会報委員会

第 2 1 1 2 回 令和 5 年 6 月 2 1 日 (水)

本日の行事 会員卓話 (R 財団委員会)

2022-23 年度

小島正則会長

本日のお客様 郡上長良川夢花火実行委員会

委員長

田中康裕様

大和振興事務所

清水正則様

大和観光協会

河合 恵様

幹事報告

松森正和幹事

* ガバナーエレクト事務所より委嘱状

羽土洋司君 補助金小委員会副委員長

* ガバナー事務所より

・日台ロータリー親善会議の案内

* 地区事務所より

・クラブ研修リーダーセミナー開催のお知らせ

7月29日(土) 岐阜グランドホテル

* 郡上市青少年育成市民会議総会の案内

6月30日(金) 郡上市総合文化センター

* 白鳥町国際交流協会より 総会資料

第 2 1 1 1 例会報告

会長挨拶

2022~23 年度 小島正則会長

皆さん、おはようございます。本日は正法寺 西澤ご住職様には早朝よりありがとうございます。本日はよろしく願い致します。

今朝はようやく梅雨らしい天気で、アジサイがとてもきれいに咲いています。今朝の例会で身を清めて今日一日が良い日でありますように、お祈りいたします。では会長の時間を終わります。

ご法話

薬王山正法寺 西澤英達ご住職様

ようこそお出で下さいました。ご存じかと思いますが、この寺は昭和50年11月10日、スズケンの会社の社員の研修道場として新たに建立されました。以来、今日まで地元の方々と様々なご縁をいただきながら、歩みを重ねてきました。お寺の歴史としてはあってないような40数年であります。最初からのご縁があるのは寺田澄男さんです。その翌年に青年会議所が発足しまして、それによってご縁をいただいたのが藤代さん、美谷添生さん、寺田正実さんです。また色々な方々とのご縁を授かりながら今に至っているという事です。ロータリークラブとは浅からず因縁がありました。発足した当時、大島におられた猪俣加域さんが訪ねてこられて、



「ロータリークラブでクラブの歌を作ることになったんだけど、歌詞を考えてくれないか」というご依頼でした。色々考えまして、一応作りましてお渡ししました。それをたたき台にして皆さんで考えられて歌が出来たという事です。また例会にも4、5回お邪魔させていただいたと思います。ただ皆さんに来ていただくのは今回が初めてです。どんな方々が来ていただけるのか楽しみにしてお待ちしておりました。

先ほどニコBOXのご紹介がございましたが、これはどういう趣旨のものでしょうか。嬉しいことがあったことを喜びながらお金を入れて、世の中の役に立つという事で行われているという事、いま聞かせていただきました。仏教は喜心という事を説きます。喜は喜ぶ心、また喜べる心とも読みます。常に私たちは色々な喜びに支えられて生きている、そのことを忘れてはならないという意味で、喜心という言葉が説かれます。具体的にどういうことかと申せば、健康で、こうして出かけてこられる状況にある事、これがまた一つの喜び。それよりも衣食住、着るもの、住む所、食べる物に恵まれていることが代表。その他細かく見つめてみれば、喜びの材料は無限にあります。あって当たり前という感覚になりがちで、喜びと

いう事を忘れがちな私達であるという事で、戒めながら常に喜びということが私たちの人間性を豊かに高めていく、大きな力になっていくという風な事で説かれている言葉であります。それを踏まえて、どなたの作か分かりませんが、「喜べば喜び事が喜んで、喜び連れて、喜びに来る」という短歌が、昔から伝えられています。一つ喜んだら、またそこから次の喜びが生まれてくる、更にまた次と言う事で、喜びの連鎖という事が重なってくる、という事を詠んだ歌ですけれども、逆を言えば、不平を言ったり不満言ったりすれば、それがマイナスマイナスという波紋に広がっていく。常に喜ぶという事を前提にして、物事と向き合う、あるいは人様と出会いを重ねるといふ姿勢を大事にせよ、という事が喜心という教えであり、また今ご紹介した五七五七七というものの心という風に言えます。特別何か嬉しいことがあったり、また逆に悲しいこともあり、苦しいこともあり、トータルしてみればどちらかと言えば辛い事・苦しい事・悲しいことの方が多いたが、私どもの人生であるかという風に思います。



お釈迦様はこの世は苦の世であると、苦しみの世であると断言なさいました、苦しい世の中であるからこそ、自らを律して、より前向きに生きようという事で、様々な教えが説かれているというふうにも申せます。その一つの前提として喜心があり、ニコBOXの心にも通じていくのだろうと思います。

そうはいつてもつい愚痴が出たり、不平が出たり、不満が出たりという事で、喜びの心が隅の方へ追いやられてしまうような日暮しになりがちな私共であるということ踏まえて、もっともっと色々な事に素直に喜べる心というものを育てていきたいものです。このニコBOXはそういう事も含めて継続されているものと想像致しますがどうでしょうか。

話が変わりますが、テレビで新和建設のコマーシャルがよく流れていますが、大工さんがカンナを掛けて、小学1年生くらいの男の子が「う～ん、まだまだ」とおっしゃる。あのコマーシャルが私は大変好きです。何がいかと言いますと、まだまだと言葉がとてもいいんです。私共はある程度年齢を重ね、ある程度の地位を得たりしますと、そこそこ自己満足に陥りがちですが、仏教は磨けば磨くほど光輝く存在であるという事を説きます。

つまり私達にはいろんな可能性がこの五体の中に埋もれている。それを発掘し耕し、育て、花を咲かせ、豊かな実を实らせる、そういうのが生きているという事の意味であるという風な事で、ある方の説によると、自分が知っている自分は、本来の自分の一割に過ぎない。後の9割はまだ自分でも知らない自分があるのだという事です。「色々な機会を通して、色々な出会いを通して新たな自分と出会って、そして人間性を高めていくという事が大事ですよ」、ということをおっしゃる方があります。確かに何かの加減で自分はこんな面があるのか、こんなこともあるのか、自分ながら意外に思うことがしばしばあります。また想定したことと違う自分というものに出会うことも結構あるものです。まだ9割も自分の中に、自分の知らないものが埋もれているという事を言われますと、ワクワクするような、どんな自分に出会えるのか、次はどんな自分を知ることが出来るのか、そんな楽しみというもの生まれてくるようにも思います。

そのことを仏教は脚下照顧という言葉で表現しております。足元をよく照らして己を見つめよ、という事になります。簡単に言えば反省を怠るなということになります。これでいいという風な自己満足に陥っては、せっかくの芽が日の目を見ない事になる。これでいいという風に思ってしまったら、せっかくの可能性を自ら否定してしまう、という事になりかねない。そういう意味で「まだまだ」という事、あのセリフが実に象徴的な意味を持っているという事です。皆様方も私でも、何歳になろうとも常にまだまだ可能性が沢山あるんだという風な前提で、様々な事にチャレンジしていく。様々な出会いに心を寄せていくという風な生き方というものが、目指すべき方向と申せます。

こうして皆さん方が月々例会を重ねて、色々な話を聞き、また自らお話をなさったりと、いうふうな形を通して、ご自身と新たな出会いをもつという風なことも多分これまでもあったでしょうし、またこれからもそういうことがあるだろうと想像されます。

結局は自分を育む、自らを育てる、そういう場であり、日々であるという事を改めて心に留めて頂ければと思います。

仏教には色々な教えがございます。この地方は浄土真宗の教えが深く浸透している土地であります。その浄土真宗を開かれた親鸞聖人に、ご存じのとおり法然上人のもとにおいでになる以前は比叡山で御修行をなさいました。比叡山へ行きますと、親鸞聖人の御修行の地などの石碑があつたりします。親鸞聖人の足跡も比叡山には様々ありますし、そのゆかりの品というのも大切に守られてきています。比叡山を開かれた伝教大師という方、最澄とも言いますが、この方の残された文書には山家学生式というのがあります。その冒頭に「国宝とは何者ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を、名づけて国宝と為す」大変有名な書き出しであります。国の宝とは何かと考えた時に、今の私共の感覚からすれば美術工芸品など物を連想しがちですが、物やお金が宝ではない、人間が宝である、しかもただの人間ではない、道心という志を持ち、その実践を怠りなく励む者が、国にとってなくてはならない宝のような人物、人材である。そういう人を育てるために私は

比叡山を開いたのだというような内容に繋がっていくわけでありませう。道心とは分かり易く砕けば向上心ということになります。常に自分自身を磨き高めようという志を持つこと、そしてそのための実践を怠りなく励むという事、この志が、道心が定まって初めて本来の生き方なり、歩みが始まるという事を、文書の中で説いておられます。

また油阪を越えて福井県へ行きますと永平寺に到着しますが、この永平寺を開かれた道元という方は「仏道を求むるには、まず道心を先とすべし」という事を、ある文書の中でおっしゃっておられます。同じ道心が使われているという事でありませう。仏道は仏の道と書きますが、専門的にならず、人間として誤りなく生きていく為にはという風な意味で理解していただいている言葉でありませうが、何よりも道心が第一であると、向上心をまずもって自らに定めることが大事ですよという事を道元様もおっしゃっておられます。さまざまな方々が道心という言葉を繰り返し説いて、大事さを示しておられます。

向上心、これも先ほどの「まだまだ」と関わってくることでございませうが、これでいいという事はない、命ある限り、自分自身を高めていこう、磨いていこう、向上させていこう、そうした意志、思い、というものをどれほど大事にするかによって、その人の人生なり、生き方なりというものが左右されていくという事でありませう。

よくきづきの精神と言います、気が付くという気付きと、建築の築という築き、人生も仕事も気付けて築くものだという言い方です。これもある方から教わった言葉でありませう。色々な事に気がつくことによって、ああしてみよう、こうしてみようという行動が生まれてくる。気が付くことが多ければ多いほど築き上げる物もまたそれに伴っていく。逆にポーっとして、何も気が付かず過ぎてしまえば、その人の人生もそれなりのもので終わってしまうという風な事で、もっともっと注意深く周りを見つめ、また自らの内なるものを見つめ、色々なことを発見し、気が付き、そしてそれを踏まえて豊かなものへと築き上げていけるという人生であり、生き方なりというものを目指していきたいものと思ひませう。

今日ここへ来られて初めての方も半分近くお出でになりますませうが、こういう風な所だったのかと初めて気付かれた事だろうと思ひませうし、またじゃあこうしてみようという新たな行動がすでにヒントとして頭の中に生まれている方も、もしかしたらあるかもしれませう。

色々な場面で私たちにメッセージが送られているという風な意識を持って身の回りを見ていただきますと、それまで見過ごしていたもの、或いは見ていながら見えていなかったものが見えてくるという事も大いにありうることだろうと思ひませう。

ついでに申し上げればこの境内に入られるところに掲示板があります。今日はご覧になられましたか。たいていのお寺さんに掲示板はございませうね。その掲示板には行事などが書かれていますませうが、たいていは今日の教えなり、お経の中の言葉なりが掲示されています。それは単なる飾りではなく、これを見てあっと思われる方が一人でもあればいいなと願ひを込めて掲示してあります。それを掲示板布教といひませう。掲示板によって教えを広めるというようなことではございませう。是非お寺の前を通りかかることがございませうたら、ちょっと歩みを止めてみていただくことも、新たな気付きというものに繋がっていくかもしれませう。正法寺の2つの掲示板にもそれらしいものが掲げてございませうるので、帰りに見ていただければと思ひませう。

大変まとまりのない話になってしまいましたけれども、ご縁がございませうたら是非またお出かけいただければと思ひませう。今日はありがたうございませうました。

ニコBOX

ニコBOX委員会 鷲見啓児君

小島正則君 本日の早朝例会、薬王山正法寺様、早朝よりありがたうございませうました。SAA佐藤さん、段取りありがたうございませうました。

寺田澄男君 ご無沙汰してあります。いつもはテレホン法話、寺報紙を届けていただきありがたうございませうます。

美谷添生君 久しぶりの正法寺です。西澤さん、よろしくお願ひします。

美谷添里恵子君 早朝例会、清々しい気持ちで参加しました。正法寺様、よろしくお願ひします。

松森正和君 正法寺様、本日はよろしくお願ひ致します。

同文 大村太郎君、尾村忠雄君、藤代昇君、羽土洋司君、山下誠君、寺田正実君、畑中知昭君、佐藤備子君、山口里美君、井俣愛美君、清水英志君、遠藤正史君、若尾隆司君、鷲見啓児君

次週行事予定

6月28日 最終例会

7月3日 第1回会長幹事会(ホテル郡上八幡)

出席報告

出席委員会 井俣愛美君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数	出席率	出席免除
第2110回	33名	20名	9名	3名	69.9%	1名
第2111回	33名	19名			59.38%	1名